

仕事・表現・思考・発想スタイルを発展させる

創造発想法

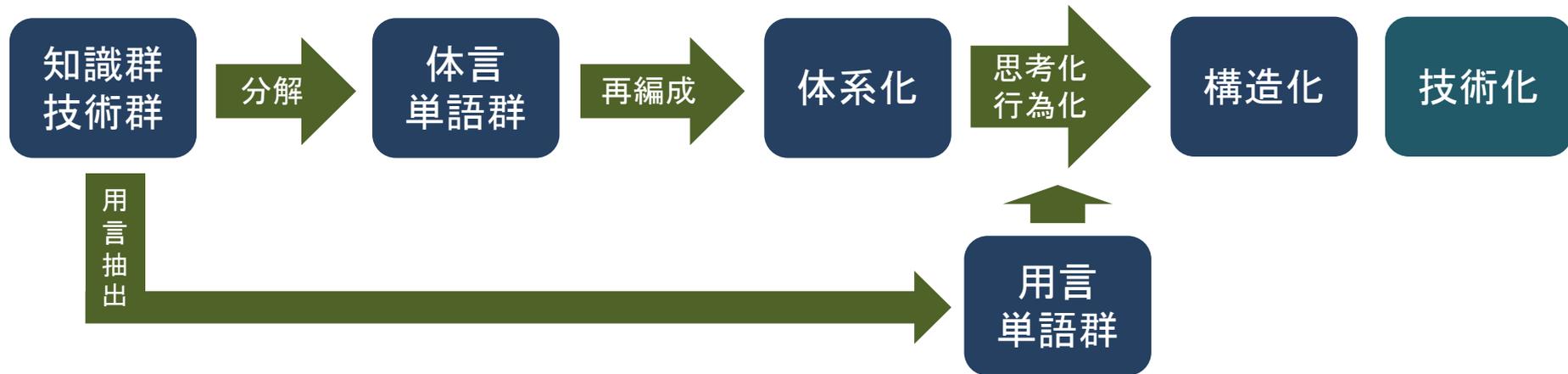
不確実な知識を体系化・構造化する

自らの中に眠る語彙力を甦らせ、活用できる場に導き出す

創造発想法の目的

発想法はアイデアを導きだすだけでない。
自らの知識技術をまとめ、体系化し、構造化する手助けになる。

私たちは20万単語ほどを知っている。だが、その大半が眠っている。
自らの中に眠る単語を表出させ、語彙力として活用できる場に導き出す。



知識・技術を持つ者は、言葉を持つ。言葉を使って、知識・技術を伝承する。伝承するために、自らの知識・技術を言葉にしてまとめていく。

知らないことは発想できない。発想できる事柄は、元々、自身の中にあつたものだ。バラバラに散在していて、形を持っていなかった言葉が、ある事柄をキッカケにしてつなぎ合わさって現れ出てくる。発想法とは、自らの中にある知識・技術を言葉にして、つなぎ合わせて出易くするものである。

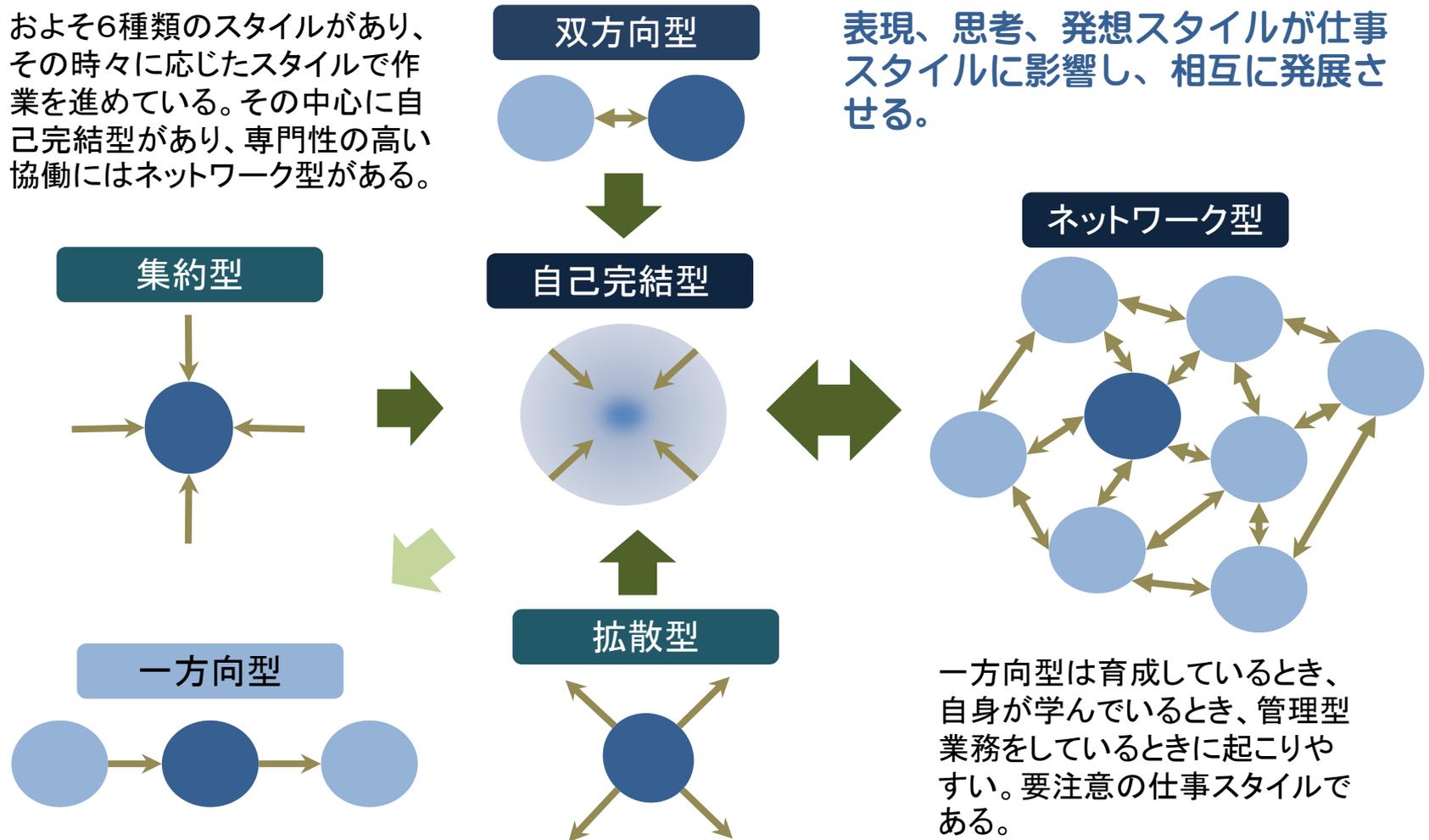
余りに多くの言葉は散在して蓄えられていると、組合せるのに時間がかかり、上手く繋がるとは限らない。少ない言葉しかもっていないくても、繋がりを整理して保存しておけば、繋がりが自在になり、発想元が豊富になる。

発想トレーニングは言葉の組み合わせ、つなぎ方の保管箱を作るのと同じである。実践的発想はそれらを目的に合わせ組み合わせ、つなぎ、体系化する。これが創造産物の元になる。

仕事・表現・思考・発想スタイル

仕事スタイルが表現、思考、発想スタイルに影響する。
自らの主な仕事スタイルを認識しておこう。

およそ6種類のスタイルがあり、その時々に応じたスタイルで作業を進めている。その中心に自己完結型があり、専門性の高い協働にはネットワーク型がある。

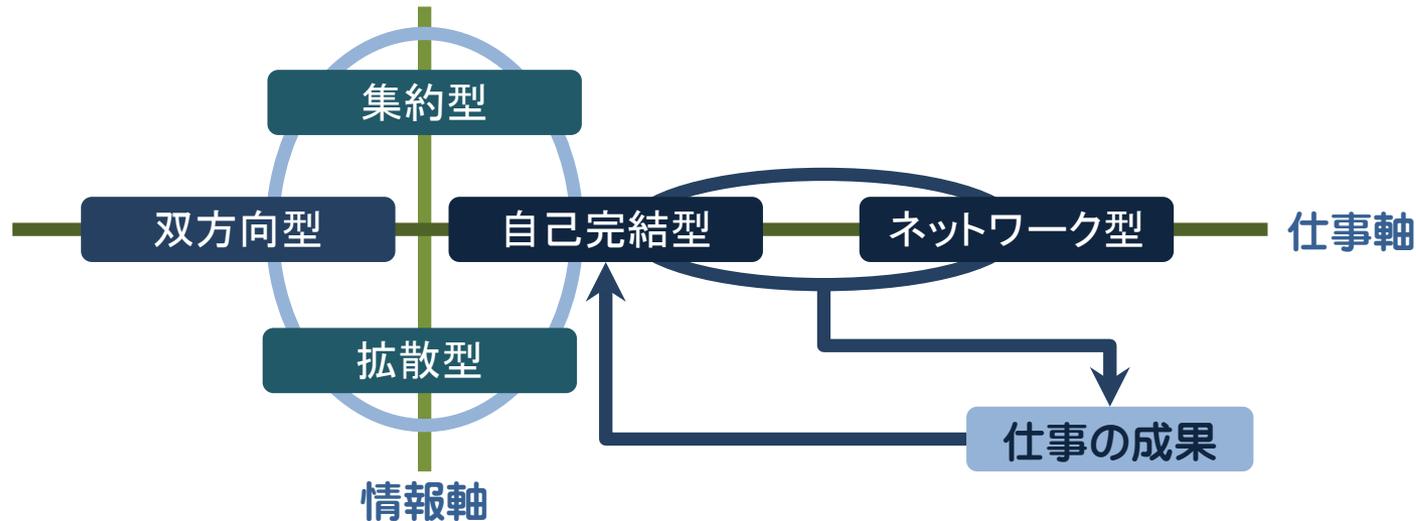


表現、思考、発想スタイルが仕事スタイルに影響し、相互に発展させる。

一方向型は育成しているとき、自身が学んでいるとき、管理型業務をしているときに起こりやすい。要注意の仕事スタイルである。

発想サイクル

自らの知識・技術を十分に機能させるには、ネットワーク型が必然になる。専門性が高くなれば、自らの知識・技術だけで成果が上げられなくなる。ネットワーク型で仕事が進められれば、自らの知識・技術を活かせるだけでなく、他の知識・技術を垣間見られ、自らの知識・技術とする可能性も出てくる。



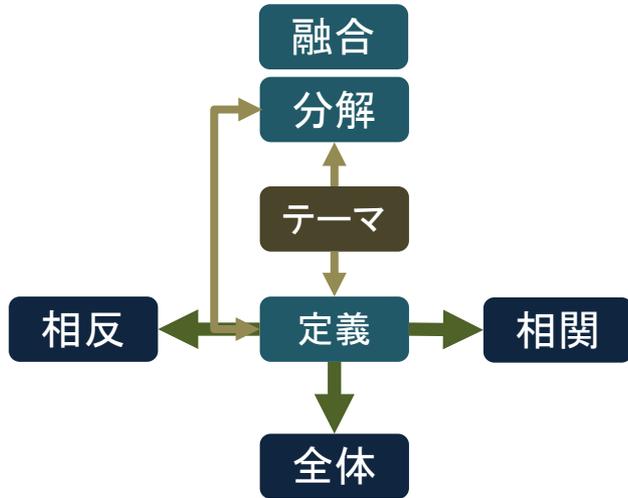
自己完結型は、如何なる場合も必然である。業務を始めるまで、業務を始めてから終わるまで、終わってからも自らの中心に持ってくる。だからこそ、成長し続けられる。自らに蓄えていけるようにし、自らが考えを発信できる状態にしておく。

集約型と拡散型は情報収集と自らの知識・技術及び考えの適正を計る。双方向型はネットワーク型の前提となる。集約型、拡散型、双方向型と自己完結型をつなげて、思考、発想、表現を一つにまとめていく成長プロセスとする。

思考＞発想＞表現＞業務 の順に頻度が多く、スピードが速い。但し、成果の確実性は逆になる。

発想基本ターゲット

創造発想基本の形

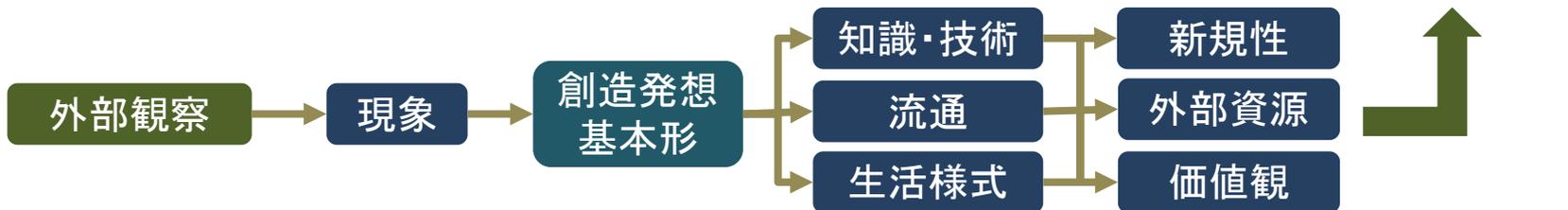


テーマは、命題であるが、何も表さない。テーマの意図、テーマの材料、テーマの目的が明確にされて、テーマの意味が現れる。テーマを定義、分解して意味を整え、始まりとする。融合は、分解された語群の複数の組み合わせから可能性の範囲を広げる。相関、相反、全体は、定義を軸にして展開する。

融合、全体、相関、相反は、テーマの広がり、外部との関係性を産み出してくる。



1方向からの目的設定は独りよがりになる。必ず内部と外部を組み合わせで行う。発想には始点と終点がある。考え始める前に始点と終点を確認する。



基準キーワード設定の目的

自分のキーワードを決めておこう

基準キーワードは、視ているとき、聴いているとき、話しをしているとき、自らに関わりある事柄を逃さないために用意する。

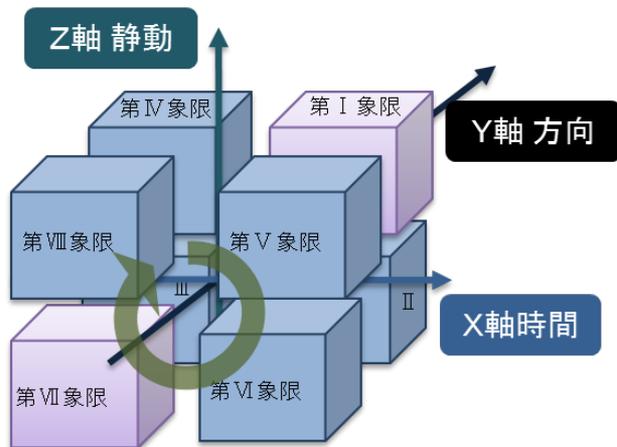
5つの基準キーワードは3つの固定単語と可変単語に分類する。3つの単語は2年以上同じ単語で維持できる自身にとって大切な語である。常に念頭において、常に注意を払い、常に発展を願う単語群である。可変単語は2単語で3単語を補足する。

1単語ではいろいろな意味を持つ。特に抽象語には解釈の仕方がいくつにも別れる。だから、1つの意味を2つの単語で表し、意味を特定できるようにする。可変単語はいくつかの組を持っている方が扱いやすい。覚えきれないだろうから、メモにでもしておこう。

固定3単語と可変2単語をセットして5単語を念頭においてもよい。

基準キーワードが、自らの中に刷り込まれたら、次の基準キーワードを用意する。

次第にキーワード群が広がっていき、知覚できる範囲が広がっていく。



設定する単語は、左図の第I象限になるように考える。

第一象限になる意味は次に示した。

X軸「時間」では未来に関わる、または未来を想定する。
Y軸「方向」では相手に向けた単語にする。けっして、自身に向けた単語にしない。

Z軸「静動」では共に活動できる、または活動材料となる可能性が高いものをあげる。

基準キーワード 5単語 + 2単語を決めよう

固定キーワード

①

②

③

I 可変キーワード

④

⑤

II

④

⑤

常に念頭に置き、考える、意識する、視る、行動をする、判断をする、ためのキーワードである。
価値基準を表す単語群である。

全部で5単語を用意しよう。
3単語は2年以上固定して、習慣化できるようにする。可変キーワードとして2単語を用意する。状況や対象、ステップアップしていくための単語である。2組を用意しておこう。

まず、3単語を決めてしまう。
次に可変キーワードの2単語を設定する。

「仕事」と「プライベート」のサンプルを1つずつ用意した。
仕事は次ページ「仕事の要因と進化サンプル」に合わせた。
プライベートは、仕事と生活のバランスで設定した。

平和、安全、安定、成長、自由、健康などは、自らのキーワードとする以前に人々の共通のキーワードとなる。

サンプル 仕事

① 言葉

② 知覚

③ 全体

I

④ 構造

⑤ 真理

II

④ 機会

⑤ 変革

サンプル プライベート

① 創造

② 学習

③ 余裕

I

④ 集中

⑤ 調和

II

④ 視点

⑤ コミュニティ

連想発想のパターン

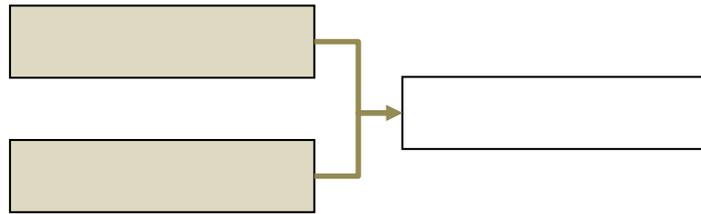
5つの連想パターンがあり、これらを組み合わせ発想を繰り返せば求める解に近づける。

にはスタート単語またはテーマ単語を入れる。

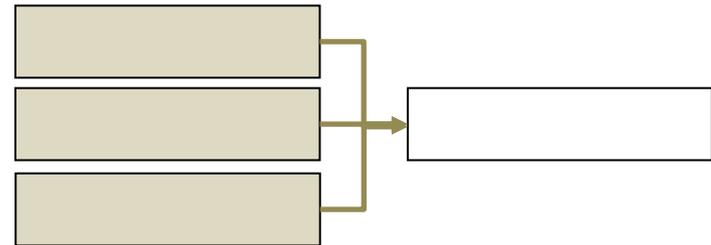
I 発展・展開



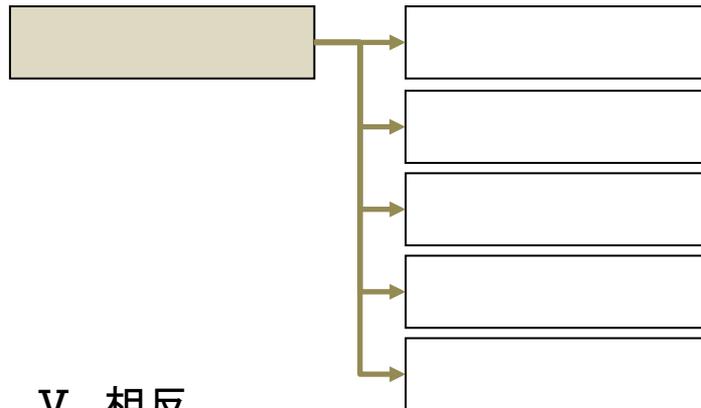
II-1 2単語融合



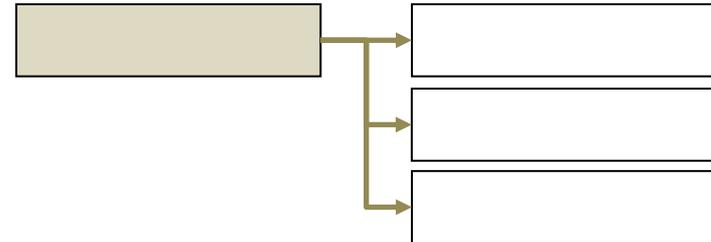
II-2 3単語融合



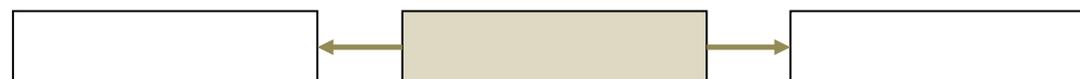
III 分解・相関



IV 定義付け



V 相反



発想パターンは単純で少ない方が良い。

発想パターン1 発展・展開



発想原則：スタートに置いた単語の意味を否定しない。前の単語の否定、相反する単語をもってこない。
類似する単語をできるだけ続けて用いない。並列的な表現になり、思考ループにはまる。
1つの発想をするとき、同じ単語を使ってはならない。使える品詞は名刺、動詞、形容詞のみ。

発想例 発想例のスタート単語は資料の「発想スタート単語 ブロック単位」の先頭単語をNOから順に使用。



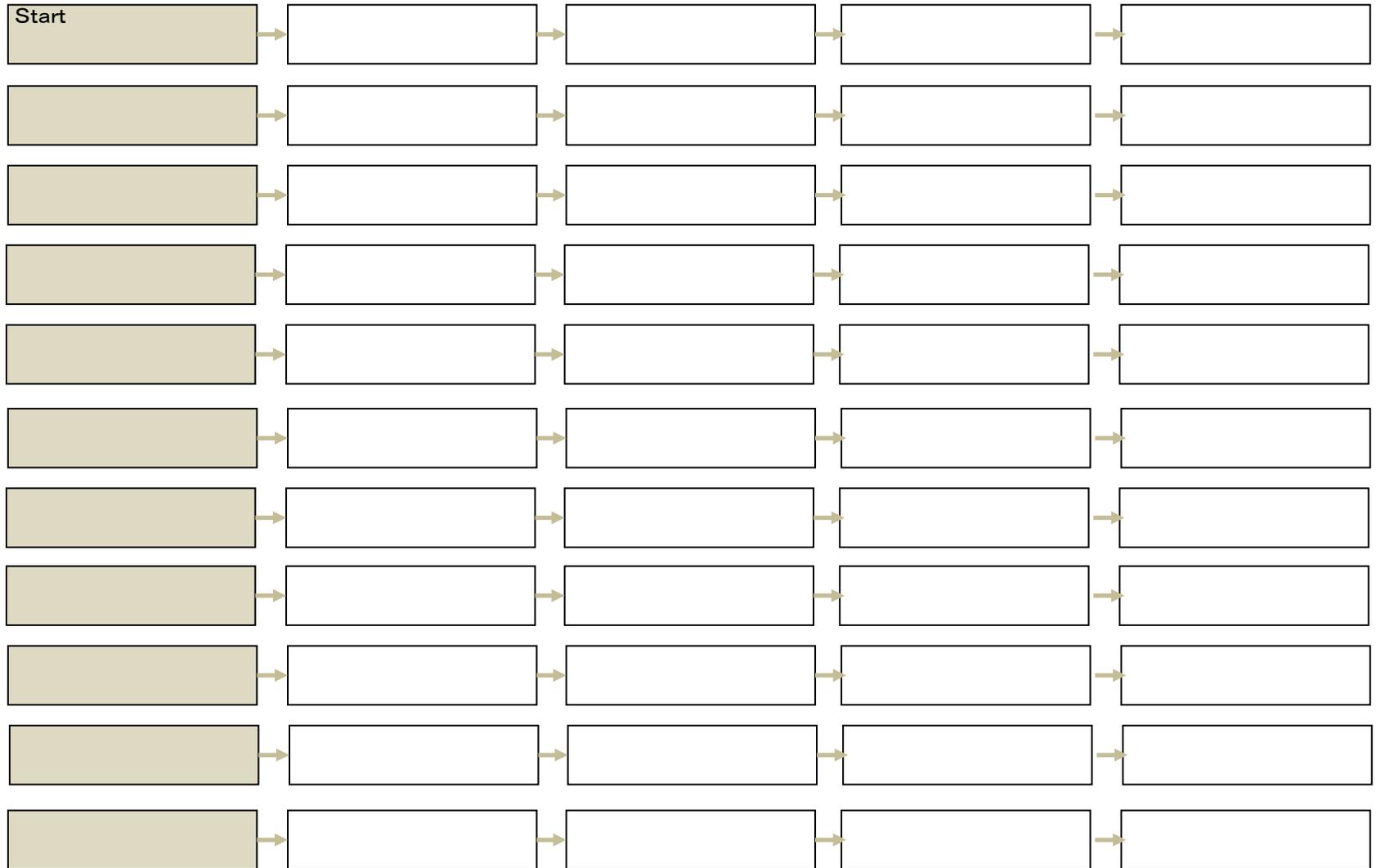
日常に行う発想はスタート単語を入れて5単語が簡単にできる。できるだけ多くの単語について練習を重ねると語彙量が増えてくる。

発想パターンIでは、5単語発想の他に、25単語、50単語がある。5単語発想に慣れてから、50単語に挑むのが良いだろう。

50単語発想では、5分間(できれば3分間)以内に50単語のすべてが埋められればベストである。短時間に多数の単語の連想ができれば、多くの材料や条件を同時に検討できるようになる。

練習時にも発想原則を忘れてはいけない。

発想パターン1-1 発展・展開 練習用1



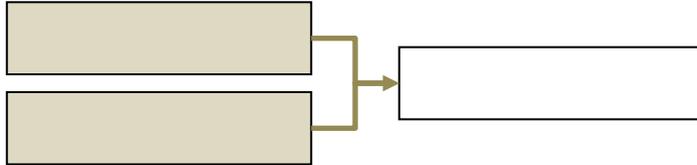
Start

5分間(できれば3分間)以内出来るように練習しよう。

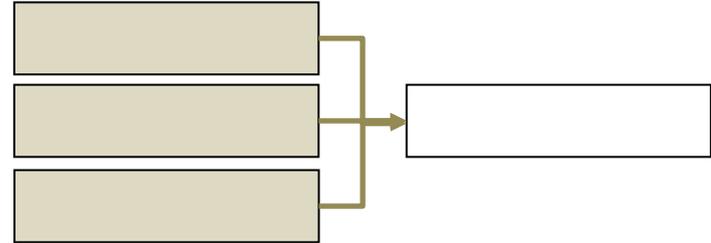
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	
→		→		→		→		→	

発想パターン2 融合

II-1 2単語融合

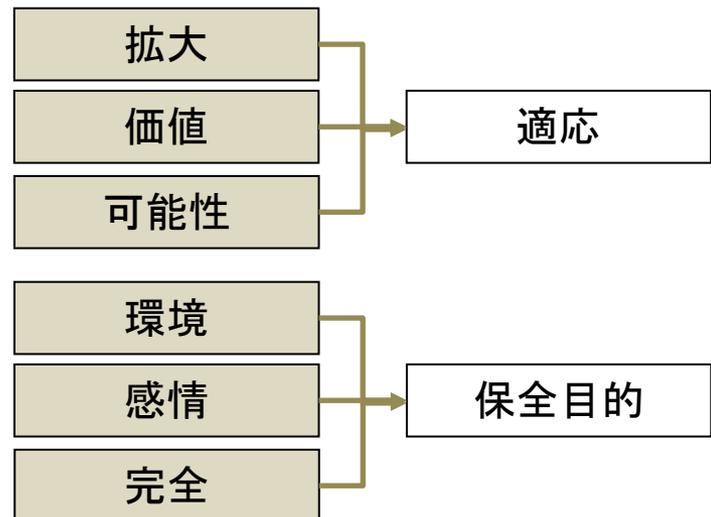
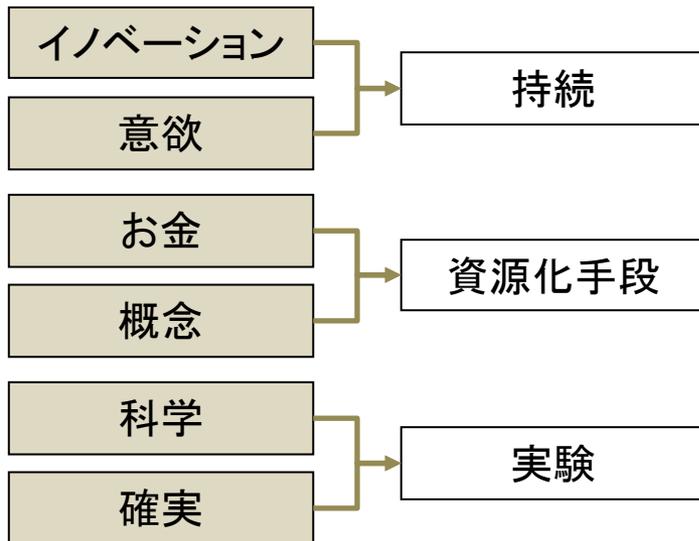


II-2 3単語融合



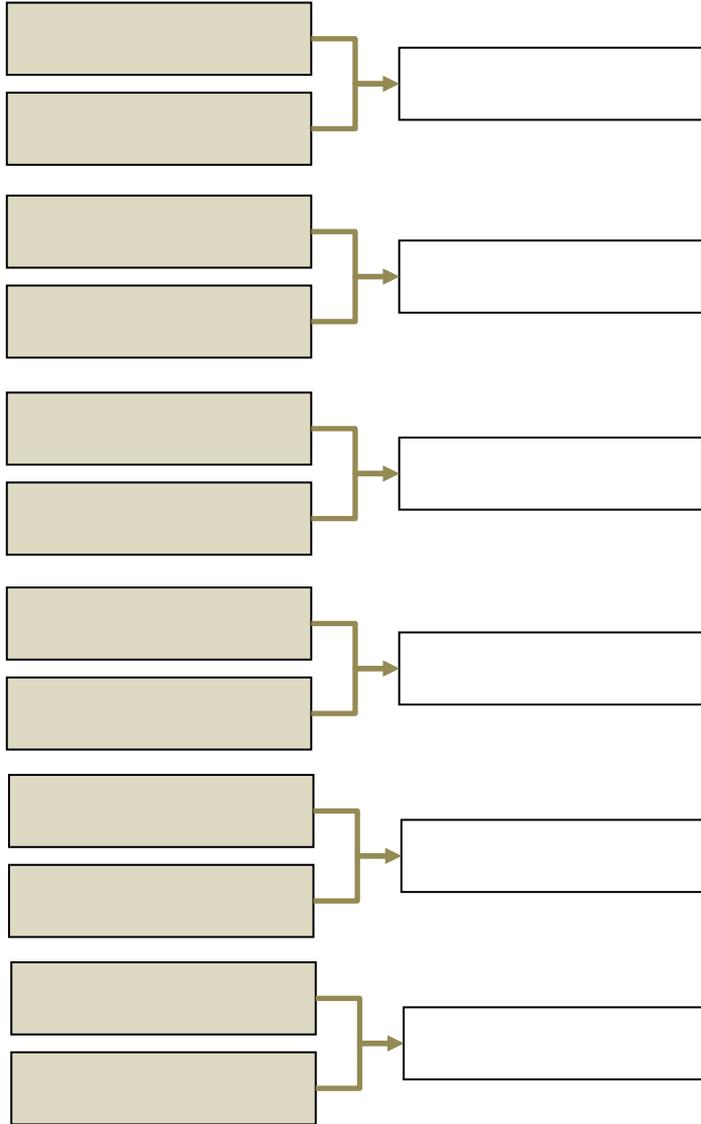
融合する単語数を増やすと、元々の意味が曖昧になる。できるだけ少ない方が良い。

発想例

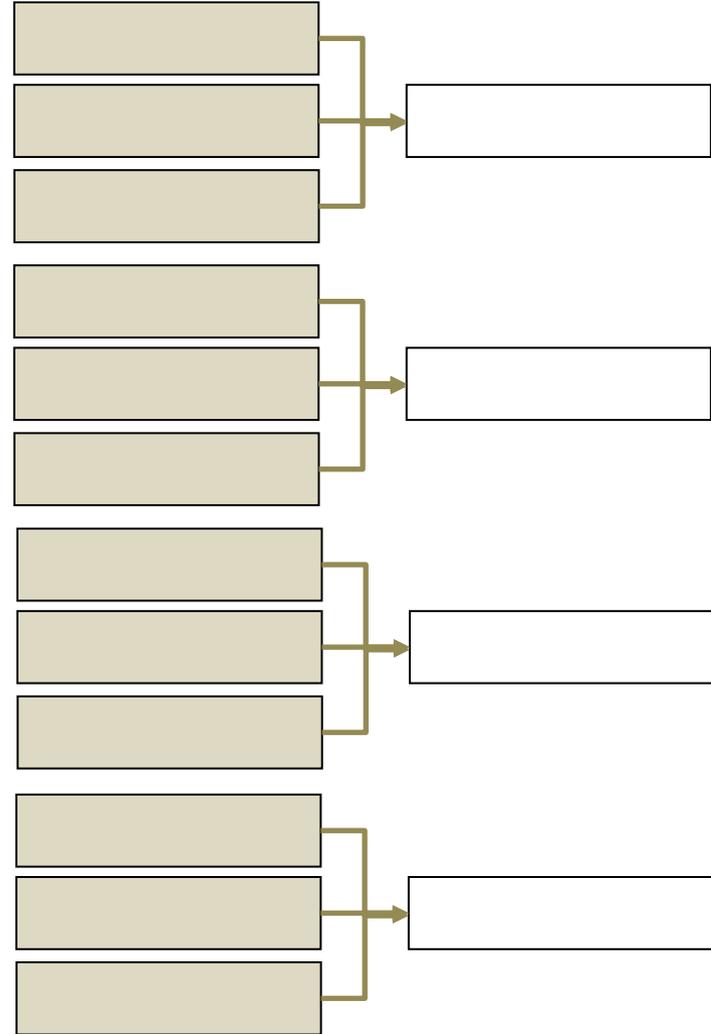


融合する解は1つではない。同じ単語を何度か繰り返し最適と思われるものを見出すようにしよう。繰り返す数は多い方がよい。最低でも10回は試みる。

II-1 2単語融合

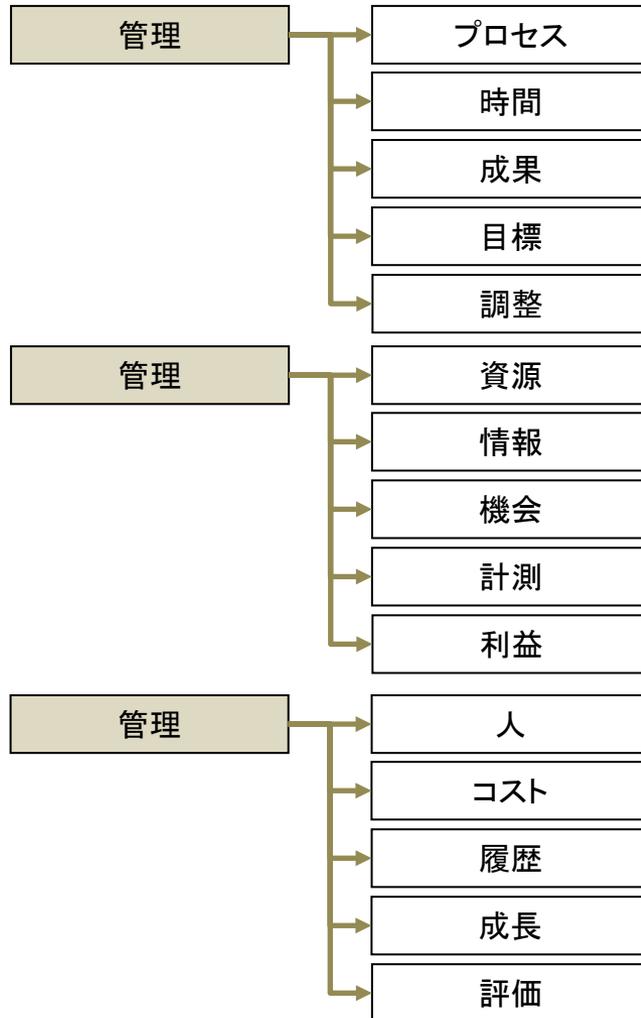


II-2 3単語融合



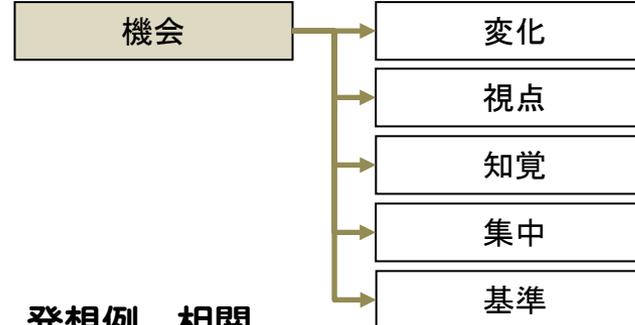
発想パターン 3₋₁ 分解・相関・定義

発想例 分解

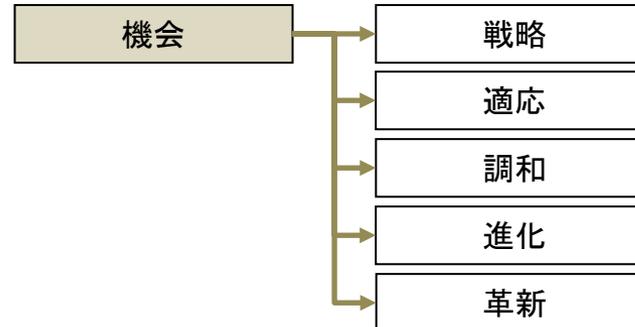


「管理」の分解例を3組表してみた。5単語で表すことによって、その意味のとらえ方、考え方が浮き出てくる。

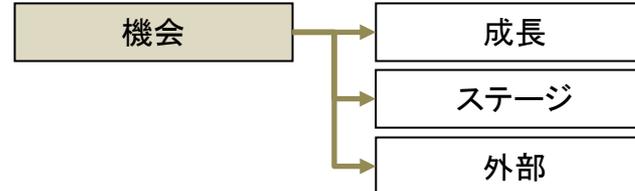
発想例 分解



発想例 相関

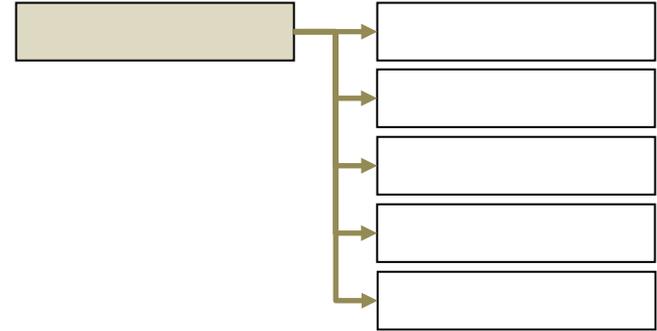
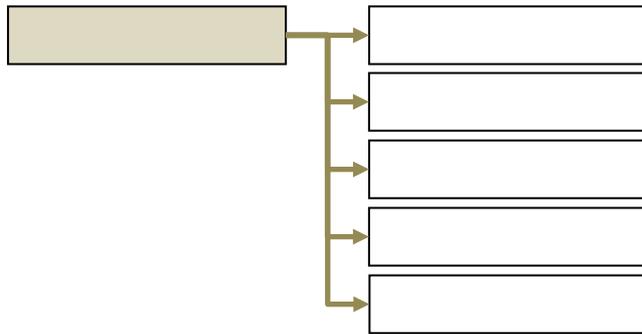
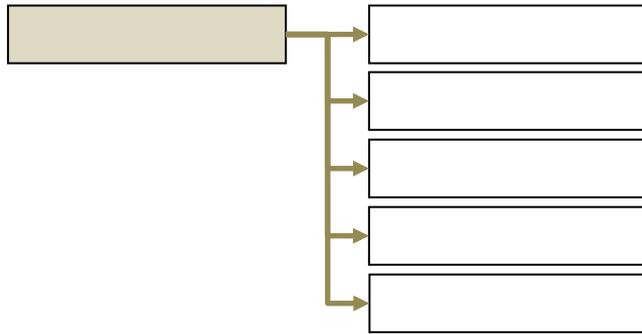
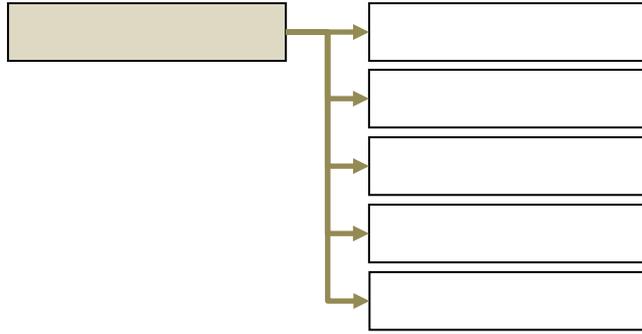


発想例 定義

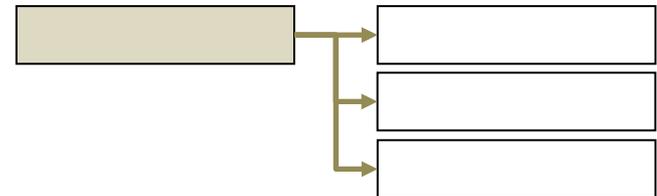
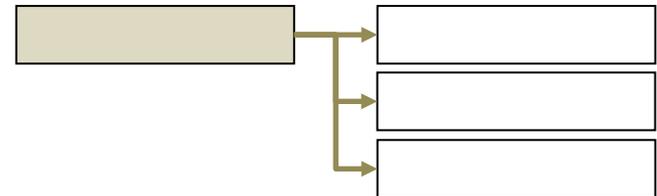
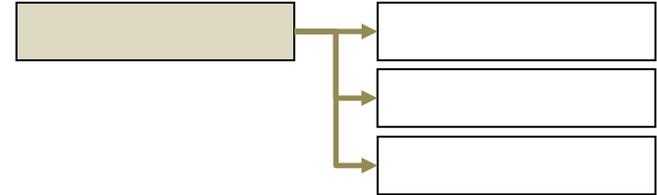


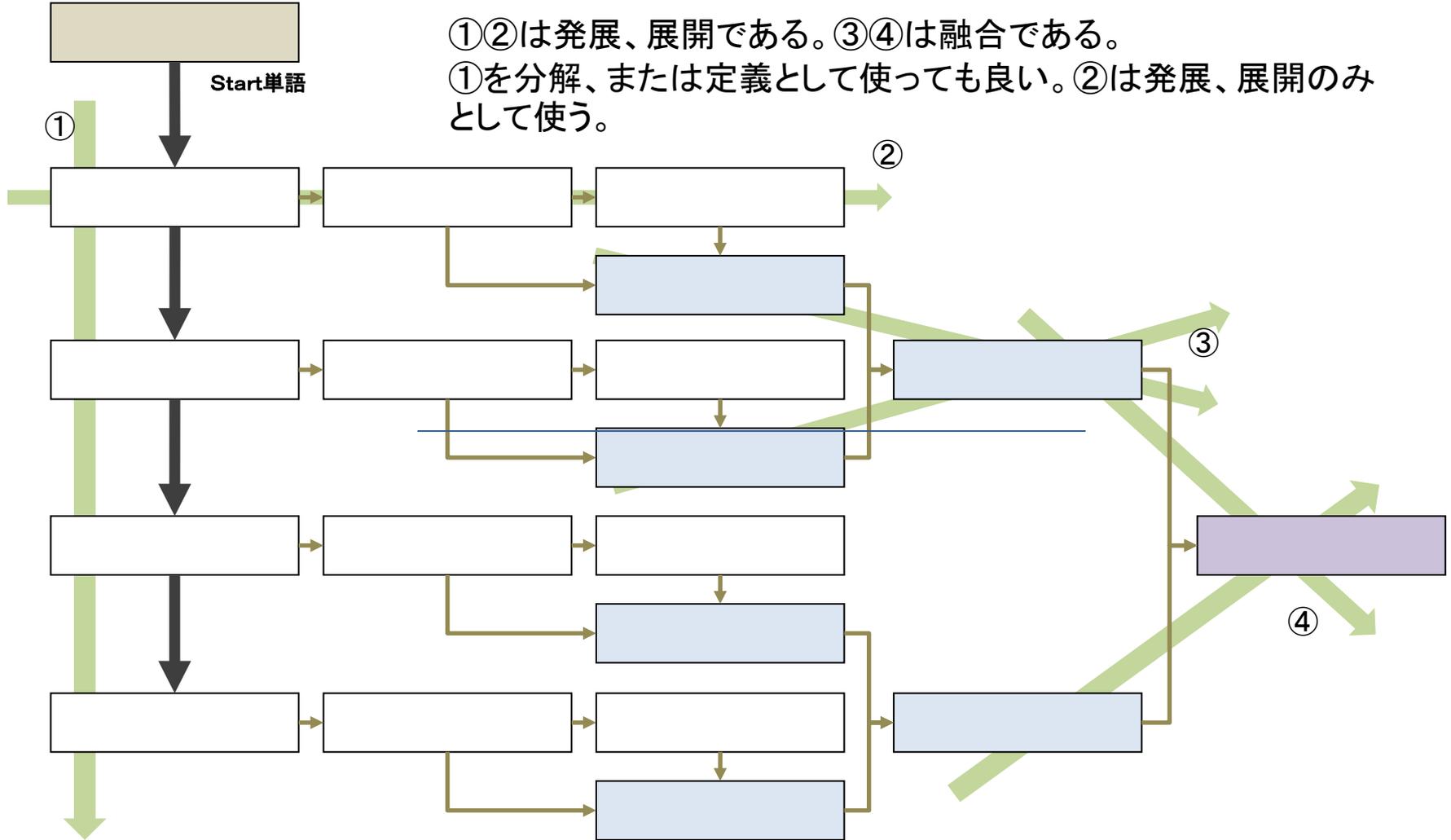
同じ単語で、分解、相関、定義を示してみた。テーマ単語に対しての行動が現れるはずである。

発想例 分解

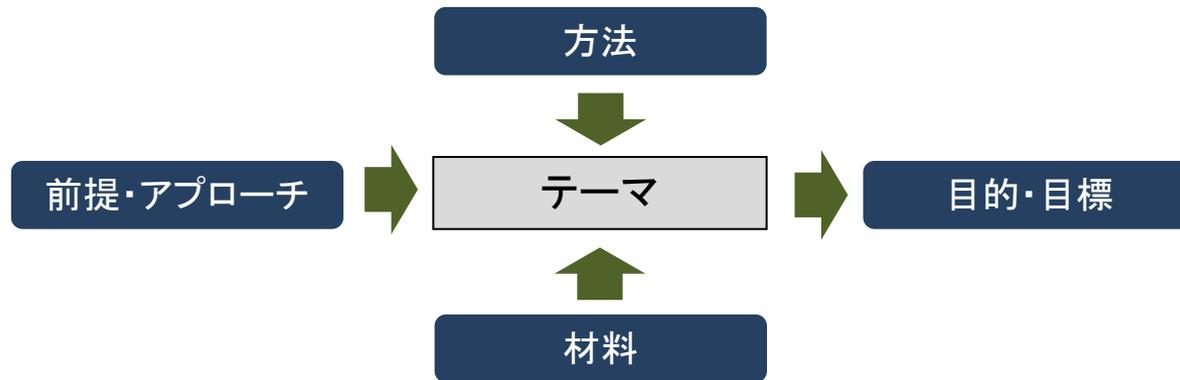


発想例 定義





仕事のベクトル



仕事のベクトルは、自らの方向を検討するための発想&思考フォームである。サンプルでは一般的になるように単語を並べた。自らが作成するとき、特異性を念頭に置いた方が良いだろう。

テーマを決めるのも問題である。トーク設定では発展・展開フォーム、分解、定義、融合を繰り返して設定する。条件融合ページから、テーマを見出してもよい。

前提・アプローチからテーマを取り出してくるように上図では見える。9つの単語を出して、3単語ずつに区分し、3単語を1単語に融合して進める。実際に試みてみると、前提としている9単語を取り出すのが困難である。先にテーマを設定し、テーマ単語を3単語に分解していく方がやりやすい。逆に進めていく。9単語と3単語を取り出してからテーマ単語の適、不適を検討する方がやりやすい。

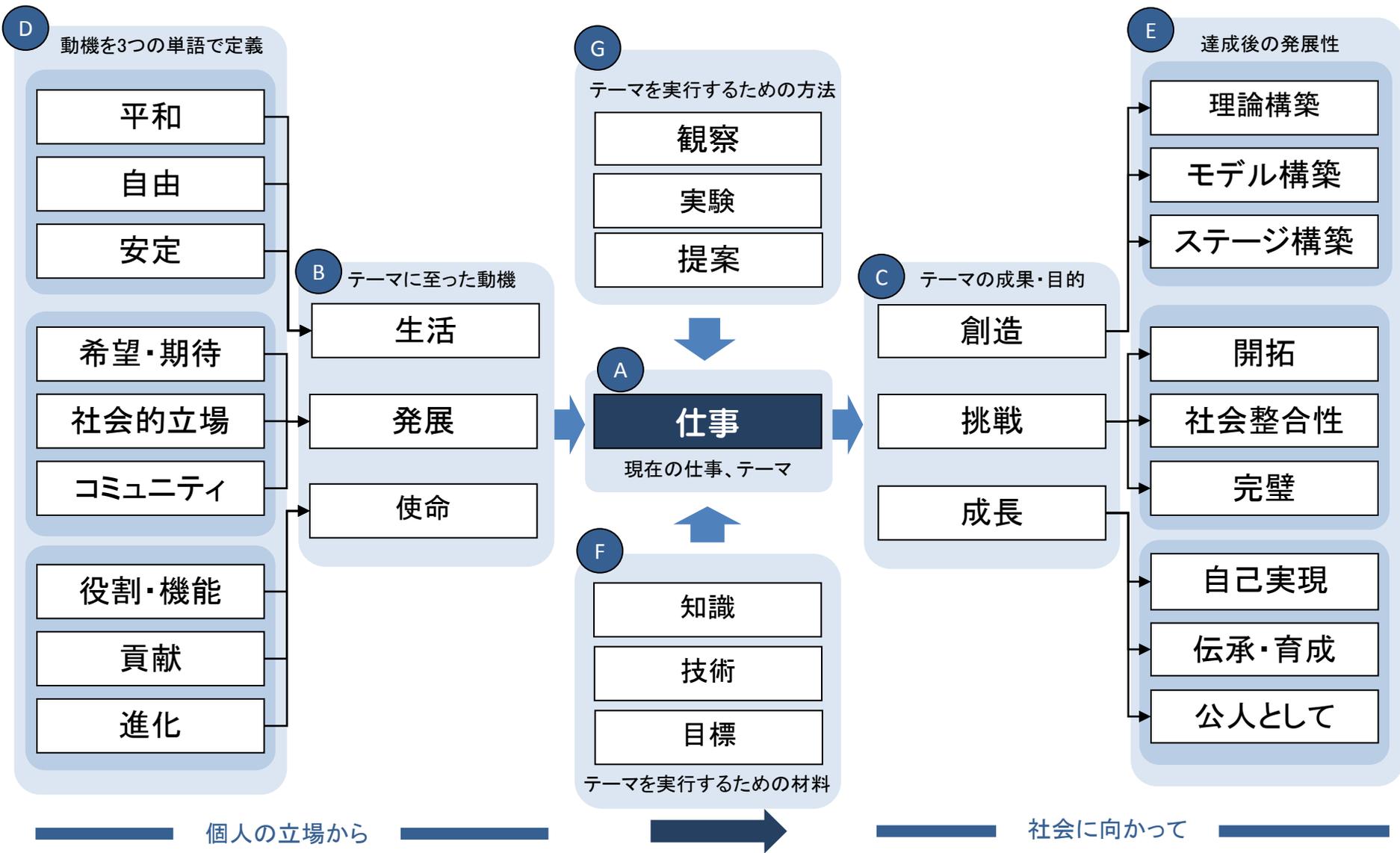
テーマから、前提・アプローチへ、テーマから目的・目標へと完成させ、そのバランスを見る。

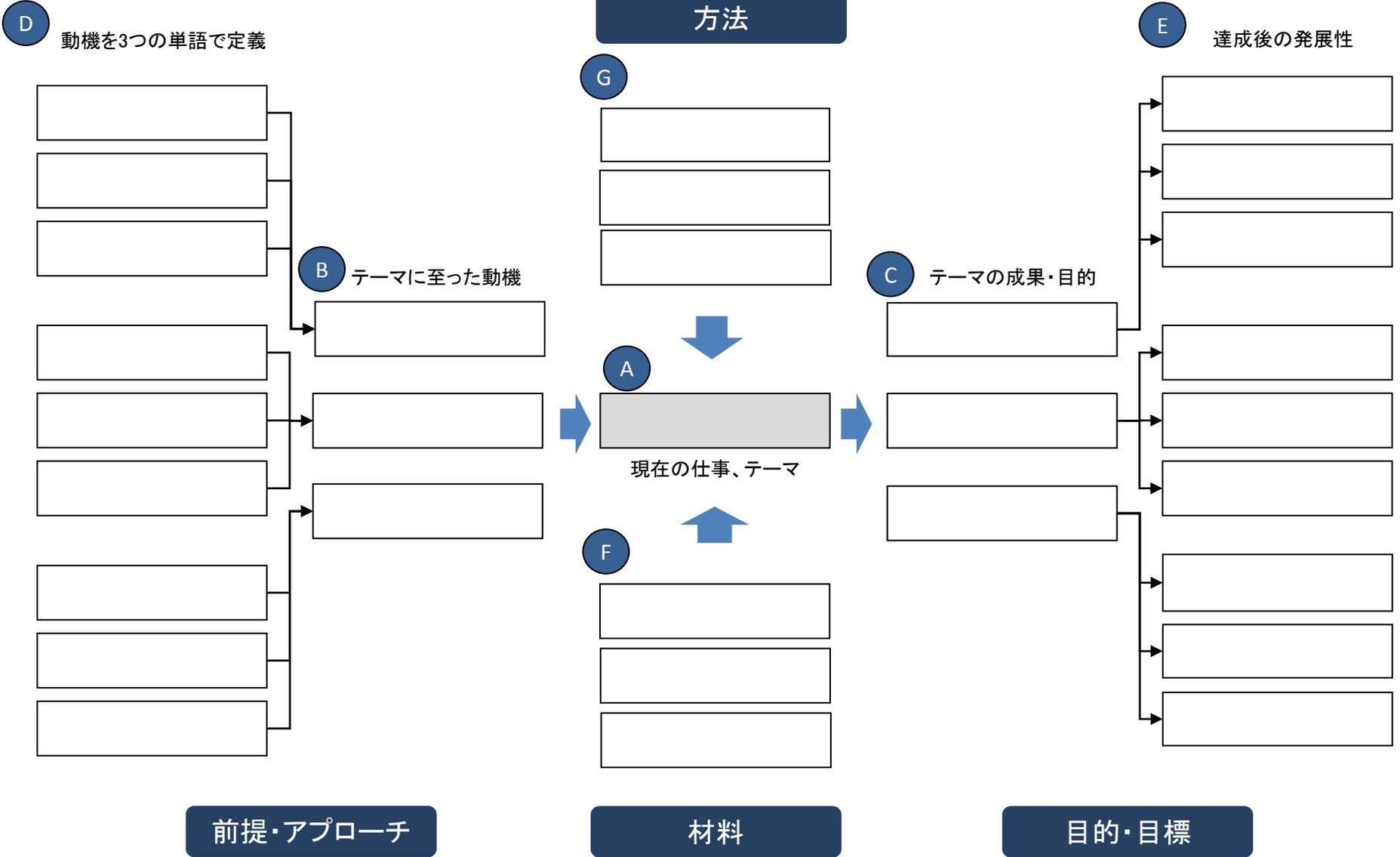
納得ができたなら、方法と材料を取り出す。

目的・目標は現在の社会状況と見比べて可能性を推定する。可能性の推定ができれば、材料と方法は埋まるはずである。

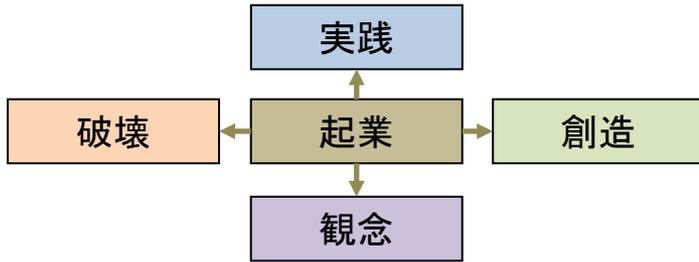
同じテーマで「仕事のベクトル」を数種作ってみる。作られた数種を眺めて、数種を纏めるように決定させる1枚を仕上げる。

仕事のベクトル (設定サンプル)

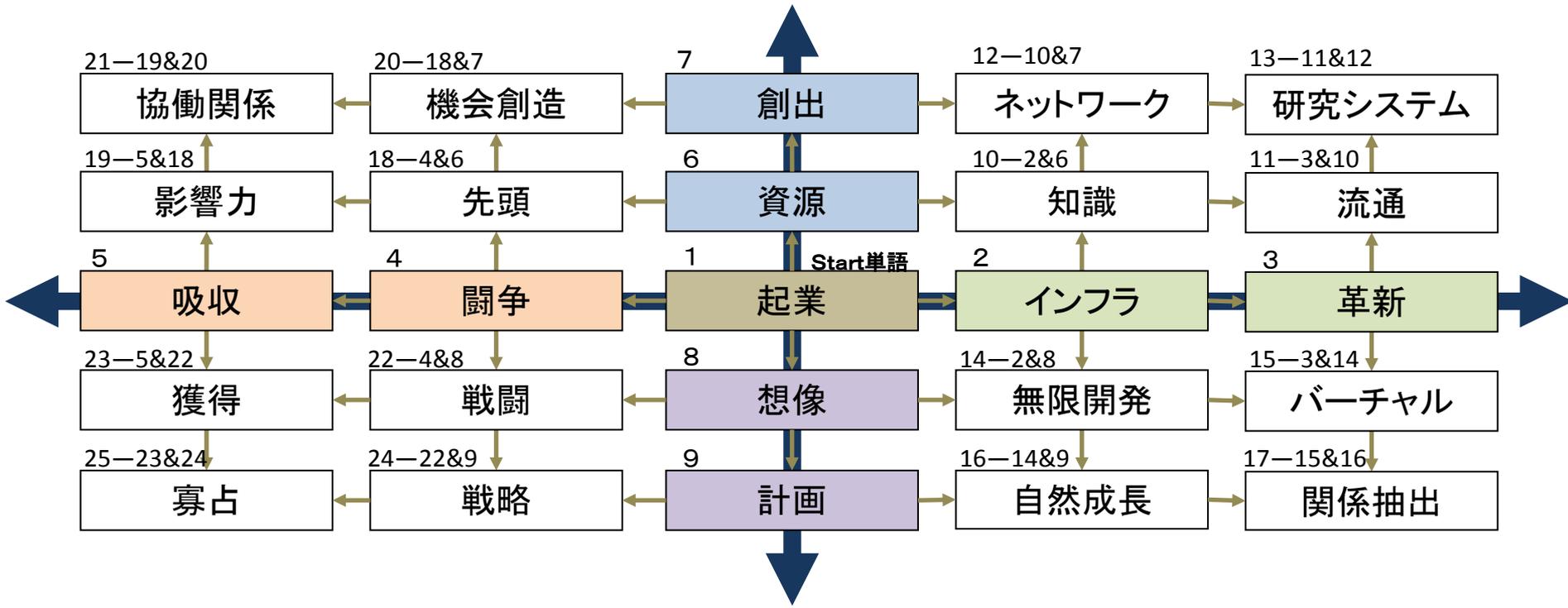




クロス発想 サンプル

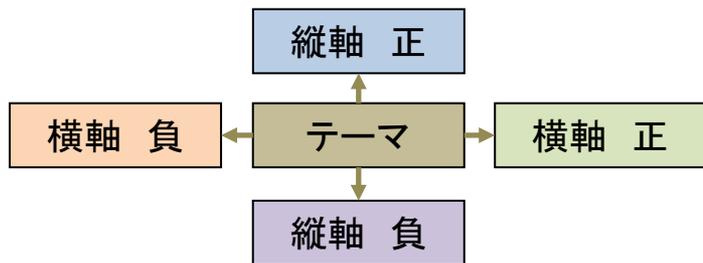


軸を設定することが既に発想になる。
 重複する単語がないように入れていく。
 出来上がったとき、13、17、21、25のマス
 の単語に注意しながら、全体を
 見る。テーマに対する考え方が
 現れるはずである。



クロス発想

練習用7

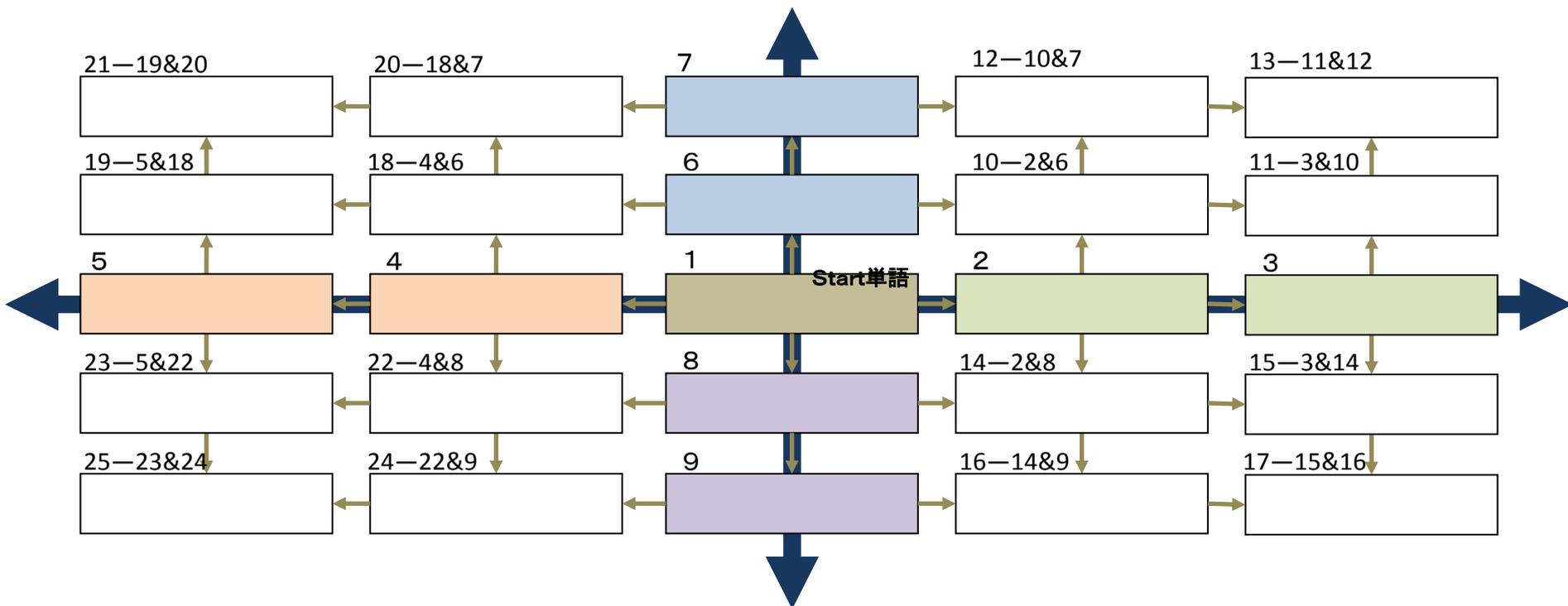


軸の設定 軸を相反の意味にする。

テーマに対して縦軸と横軸の相反する単語を設定する。設定する方法に制約はない。

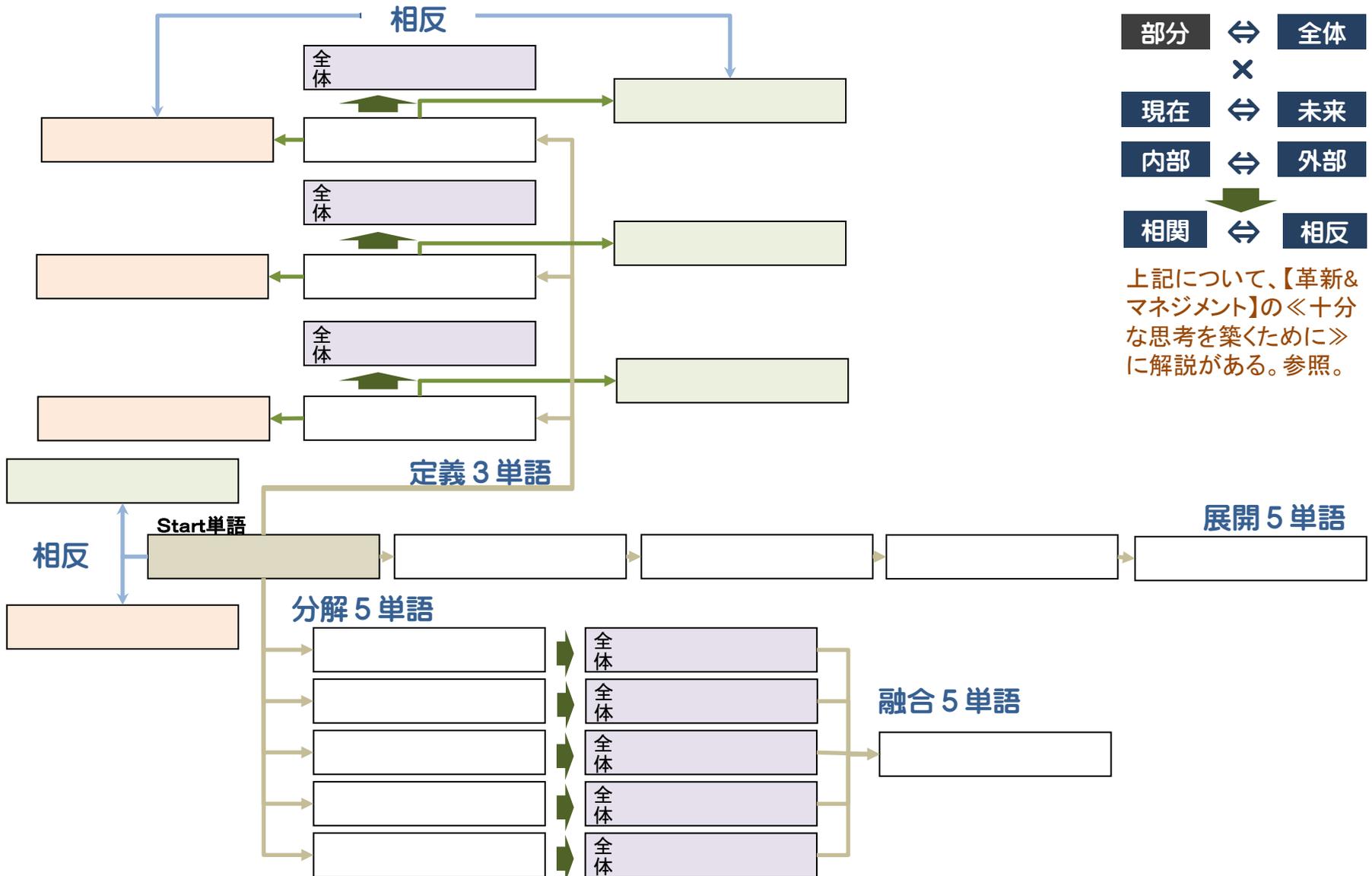
設定された意味に対して、2単語ずつ発展・展開する。下図の枠の左上の数値は、発想していく順を表す。「2&6」は、2と6のマスに入った単語を融合させた単語を入れる。

同一単語を使わないことが鉄則とする。



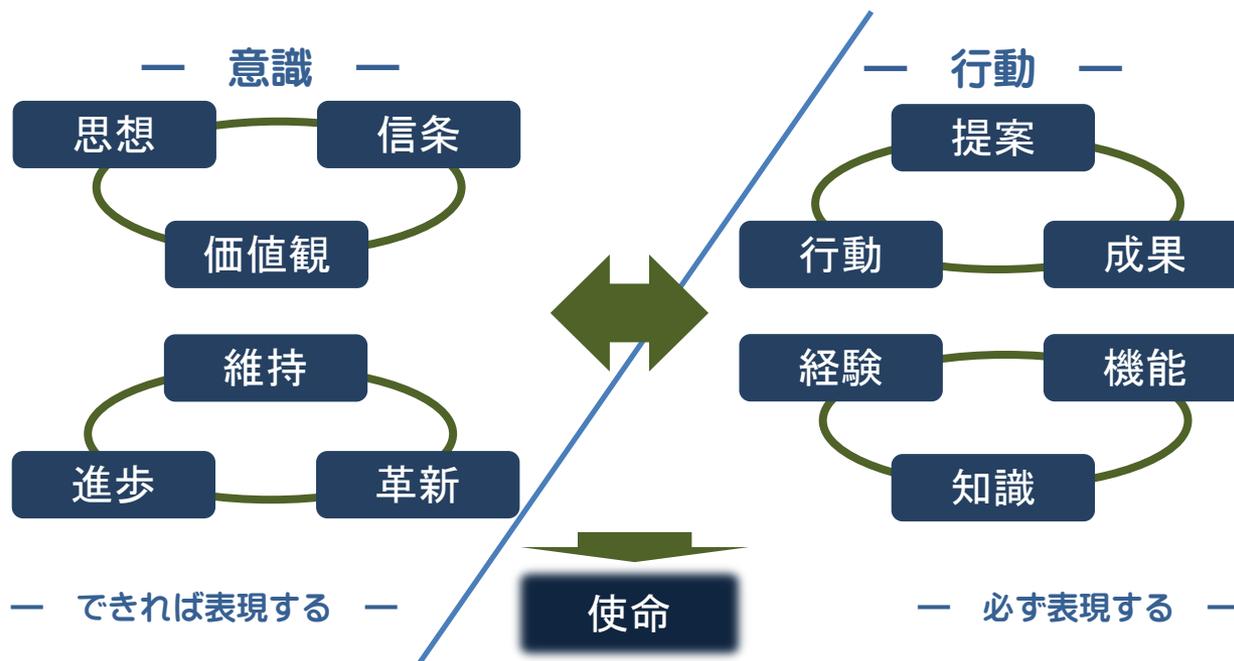
発想マップ

練習用8



自分の証明 (自分パンフレット)

オンリーワンの自分を現すために ➡ まず、自らを明らかにしよう

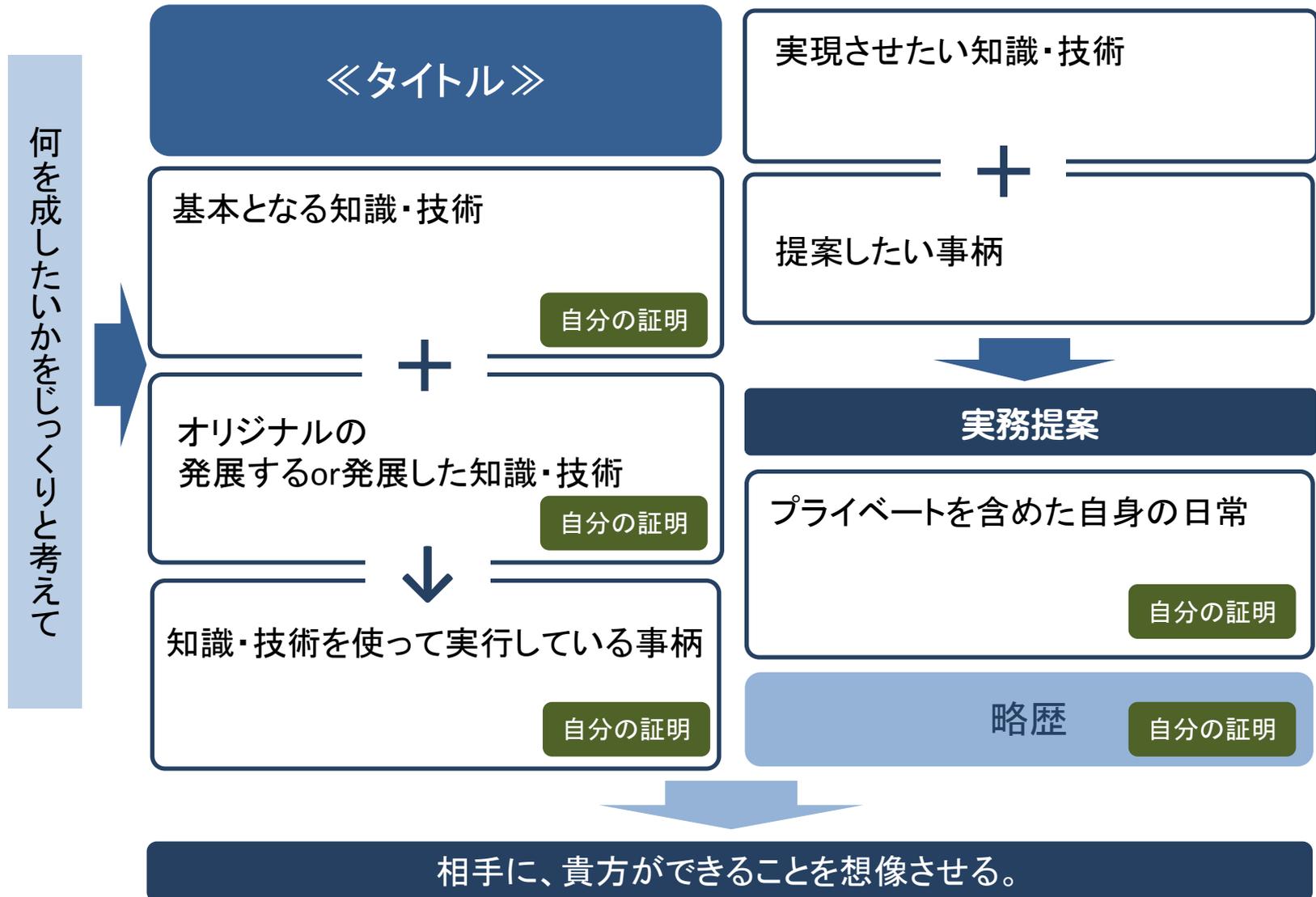


最低1年に1度は「自分パンフレット」を更新する。

活用目的

自らを他の人にできるだけ明らかにするために活用する。
初めての人との間にある垣根をできるだけ小さくする。

- 名刺と共に渡す。
- プレゼンテーションなどの機会に出席者に配布する。
- 一人に一枚を渡すのではなく、状況に応じて複数枚を渡す。



提案書(簡易版)形式

資料

提案テーマ		提案実施関連部門	
作成日	完了日	部門	氏名
i 提案目的(提案実施で実現する相手の改善・改革)	iii 実現プロセス	v 提案実施で相手が実現する未来	
ii 提案を立てた原因(背景&問題点&長所)	iv 実現プロセスでの問題点orリスク	vi 費用項目(事前調査費等を含める)	
		総費用	

進化、改善のための報告書の構造

資料

氏名	総活動時間数	活動レベル ・初期 ・プロセス ・結果 ・その他()
部署	総活動日数数	活動状態 ・単独 ・協働 ・他社協働 ・その他()
報告日 ◆ ◆	活動方法 ・対面 ・メール ・電話 ・TV電話 ・その他()	
初期活動日 ◆ ◆	対象の状態内容 ・現象実態 ・価値概念 ・知識構成 ・技術構成 ・その他()	
終了予定日 ◆ ◆	報告書の趣旨 ・観察 ・発見 ・変化 ・論証 ・予定 ・効果 ・影響 ・その他()	
計画活動目的		
活動場所	報告関連部署	
今回の活動目的	対象の状況	問題点・改善点
活動内容	何をしたかを表すのではなく、何をするのが適切であるかを念頭において表そう。	
	一致・類似・相反を確認	次回予定
	成果予測	

212単語を60ブロックに分けた。これらの単語は人、仕事、生活、組織、社会に関わる単語群である。

- (1)安全、安定、不安
- (2)育成、教育、研究、学習、焦点、観察、記録
- (3)意思決定、分析、相談、推理、選択、情報、定義、適正
- (4)移動、固定、定置
- (5)イノベーション、革新、改革、改善
- (6)意欲、挑戦、開拓、マイニング
- (7)お金、利益、コスト、投資
- (8)概念、思想、哲学、真実
- (9)科学、真理、事実
- (10)確実、仮説、推定、確信
- (11)拡大、膨張、縮小、分散、削除
- (12)価値、基準、原則
- (13)可能性、前提、条件
- (14)環境、生活、職場
- (15)感情、物、抽象
- (16)完全、純粹、類似、相反、ギャップ
- (17)管理、ルーチン、衰退
- (18)機会、想定
- (19)機関、機能、貢献
- (20)起業、企業、供給、業績
- (21)技術、知識、経験、体系
- (22)基盤、全体、部分、精神
- (23)偶像、実像、虚像
- (24)グローバル、マイクロ、ブロック
- (25)経営、消費、財
- (26)計算、数、言葉、定性
- (27)顧客、市場、流通、コミュニティ
- (28)時間、未来、過去、現在、空間
- (29)資源、資産
- (30)自己実現、仕事、スタイル
- (31)事務、マネジメント、オペレーション
- (32)社会、事件、政治、経済、宗教、歴史、国際
- (33)自由、統一、分権
- (34)習慣、風土
- (35)仕様、設計、無秩序
- (36)常識、変化、意外
- (37)障壁、円滑
- (38)自立、人材
- (39)診断、比較、適応
- (40)信頼、委任、疑問
- (41)心理、ストレス
- (42)成果、生産、生産性、効率、成長、目標
- (43)制度、制約、限度
- (44)整備、不備
- (45)正負、明暗、陰陽
- (46)責任、リスク
- (47)戦術、戦略
- (48)創造、破壊、発明、発見
- (49)組織、保護、NPO、構造
- (50)卓越、得意
- (51)断絶、変換
- (52)提案、企画、追求、探究、あきらめ
- (53)道具、方法、伝承
- (54)ニーズ、満足、日常、マーケティング、販売、ファッション、トレンド
- (55)人間、能力、不満、ビジョン、文化
- (56)認識、場、バーチャル、集団、コミュニケーション
- (57)プロフェッショナル、アマチュア
- (58)マネージャー、リーダー、職位、役割、労働
- (59)矛盾、問題
- (60)優先順位、劣後順位

NO	B-no	単語	NO	B-no	単語	NO	B-no	単語	NO	B-no	単語
1	ア	52 あきらめ	31	カ	14 環境	61	カ	12 原則	91	サ	11 縮小
2		57 アマチュア	32		2 観察	62		43 限度	92		16 純粋
3		1 安全	33		15 感情	63		19 貢献	93		35 仕様
4		1 安定	34		16 完全	64		49 構造	94		13 条件
5		36 意外	35		17 管理	65		42 効率	95		36 常識
6		2 育成	36		18 機会	66		27 顧客	96		2 焦点
7		3 意思決定	37		52 企画	67		32 国際	97		25 消費
8		4 移動	38		19 機関	68		7 コスト	98		37 障壁
9		40 委任	39		20 起業	69		4 固定	99		3 情報
10		5 イノベーション	40		20 企業	70		26 言葉	100		58 職位
11		6 意欲	41		21 技術	71		56 コミュニケーション	101		14 職場
12		45 陰陽	42		12 基準	72		27 コミュニティ	102		38 自立
13		49 NPO	43		19 機能	73	サ	25 財	103		38 人材
14		37 円滑	44		22 基盤	74		11 削除	104		8 真実
15		7 お金	45		40 疑問	75		28 時間	105		39 診断
16		31 オペレーション	46		16 ギャップ	76		29 資源	106		40 信頼
17	カ	5 改革	47		2 教育	77		32 事件	107		9 真理
18		5 改善	48		20 供給	78		30 自己実現	108		41 心理
19		6 開拓	49		20 業績	79		30 仕事	109		17 衰退
20		8 概念	50		23 虚像	80		29 資産	110		10 推定
21		9 科学	51		2 記録	81		9 事実	111		3 推理
22		10 確実	52		28 空間	82		27 市場	112		26 数
23		2 学習	53		23 偶像	83		8 思想	113		30 スタイル
24		5 革新	54		24 グローバル	84		23 実像	114		41 ストレス
25		10 確信	55		25 経営	85		31 事務	115		42 成果
26		11 拡大	56		21 経験	86		32 社会	116		14 生活
27		28 過去	57		32 経済	87		33 自由	117		14 生産
28		10 仮説	58		26 計算	88		34 習慣	118		42 生産性
29		12 価値	59		2 研究	89		32 宗教	119		32 政治
30		13 可能性	60		28 現在	90		56 集団	120		22 精神

NO		B-no	単語	NO		B-no	単語	NO		B-no	単語	NO		B-no	単語
121	サ	42	成長	151	タ	3	適正	181	ハ	33	分権	211	ラ	60	劣後順位
122		43	制度	152		8	哲学	182		11	分散	212		58	労働
123		44	整備	153		53	伝承	183		3	分析				
124		45	正負	154		33	統一	184		36	変化				
125		43	制約	155		53	道具	185		51	変換				
126		46	責任	156		7	投資	186		11	膨張				
127		35	設計	157		50	得意	187		53	方法				
128		47	戦術	158		54	トレンド	188		49	保護				
129		22	全体	159	ナ	54	ニーズ	189	マ	54	マーケティング				
130		3	選択	160		54	日常	190		6	マイニング				
131		13	前提	161		55	人間	191		58	マネージャー				
132		47	戦略	162		56	認識	192		31	マネジメント				
133		48	創造	163		55	能力	193		54	満足				
134		3	相談	164	ハ	56	場	194		24	ミクロ				
135		18	想定	165		56	バーチャル	195		28	未来				
136		16	相反	166		48	破壊	196		59	矛盾				
137		49	組織	167		48	発見	197		35	無秩序				
138	タ	21	体系	168		48	発明	198		45	明暗				
139		50	卓越	169		54	販売	199		42	目標				
140		52	探究	170		39	比較	200		15	物				
141		51	断絶	171		55	ビジョン	201		59	問題				
142		21	知識	172		54	ファッション	202	ヤ	58	役割				
143		15	抽象	173		1	不安	203		60	優先順位				
144		6	挑戦	174		34	風土	204	ラ	58	リーダー				
145		52	追求	175		44	不備	205		7	利益				
146		52	提案	176		22	部分	206		46	リスク				
147		3	定義	177		55	不満	207		27	流通				
148		26	定性	178		24	ブロック	208		16	類似				
149		4	定置	179		57	プロフェッショナル	209		17	ルーチン				
150		39	適応	180		55	文化	210		32	歴史				

用言反意語

資料

G-no	単語	反意語					
1	さぼる	精出す	いそしむ	努める	働く	励む	
2	しゃがむ	寝転ぶ	突っ立つ				
3	よろける	突っ立つ					
4	よろめく	突っ立つ					
5	哀しい	喜ばしい					
6	愛らしい	憎らしい					
7	悪い	宜しい	善い	良い			
8	安んじる	案じる	危ぶむ				
9	暗い	明るい					
10	慰む	苦しむ	悩む	悲しむ			
11	易い	難い	にくい				
12	異なる	等しい	類する				
13	移す	戻す	留める				
14	萎む	開く	咲く	脹らむ			
15	溢れる	干上がる	涸れる				
16	逸る	落ち着く					
17	引く	押す	寄せる	寄る	差す	満ちる	
18	飲む	食う	食べる	吐く			
19	隠す	見せる	現す	知らせる	暴く	明かす	
20	栄える	衰える	廃れる	亡びる	滅びる		
21	益する	害する	毒する				
22	厭わしい	好ましい	慕わしい				
23	延びる	曲がる	折れる	屈む	縮まる	縮む	
24	沿う	離れる					
25	汚い	奇麗	清らか	綺麗	美しい		
26	へこむ	盛り上がる	張り出す	膨らむ			
27	温かい	ぬるい	寒い	涼しい	冷たい		
28	下げる	供える	上げる				
29	下らない	偉い	興味深い	素敵	面白い	立派	
30	下りる	上る	乗る	登る			

曖昧	⇔	明確	同棲	⇔	別居	橫	⇔	縱	希望	⇔	失望
赤字	⇔	黒字	頂	⇔	麓	応答	⇔	質疑	客	⇔	主
悪臭	⇔	芳醇	一員	⇔	全員	屋外	⇔	屋内	逆説	⇔	順説
悪筆	⇔	達筆	部分	⇔	全体	男	⇔	女子	機敏	⇔	鈍重
朝	⇔	夕	一時	⇔	永続	親	⇔	子	帰納	⇔	演繹
暖	⇔	冷	一樣	⇔	多樣	解禁	⇔	禁止	期末	⇔	期首
個別	⇔	全般	一般	⇔	特別	解散	⇔	設立	客観	⇔	主観
削除	⇔	添加	田舎	⇔	都会	海上	⇔	陸上	急激	⇔	緩慢
仕事	⇔	遊び	今	⇔	昔	改築	⇔	新築	休日	⇔	平日
持続	⇔	中絶	陰	⇔	陽	架空	⇔	現在	吸収	⇔	発散
実測	⇔	目測	飲料	⇔	食糧	過去	⇔	未来	強	⇔	弱
先	⇔	後	右	⇔	左	貸し	⇔	借り	強化	⇔	緩和
兄	⇔	弟	雨季	⇔	乾季	過失	⇔	故意	共通	⇔	独特
姉	⇔	妹	常態	⇔	狂態	合弁	⇔	分離	拒絶	⇔	承諾
辺り	⇔	中心	表	⇔	裏	可変	⇔	不変	遠	⇔	近
収縮	⇔	膨張	自力	⇔	他力	辛口	⇔	甘口	楽	⇔	苦
柔軟	⇔	膨張	裏	⇔	表	乾燥	⇔	湿潤	偶然	⇔	必然
安価	⇔	高価	人口	⇔	天然	漢字	⇔	かな	安楽	⇔	苦痛
安心	⇔	心配	運動	⇔	静止	干涉	⇔	放任	素人	⇔	玄人
創業	⇔	廃業	動	⇔	静	簡素	⇔	豪華	軽減	⇔	重荷
操業	⇔	廃業	影	⇔	形	観念	⇔	実践	内容	⇔	形式
以下	⇔	以上	鋭角	⇔	鈍角	簡略	⇔	繁雑	美点	⇔	欠点
異化	⇔	同化	損	⇔	益	記憶	⇔	忘却	原因	⇔	結果
行き	⇔	帰り	コスト	⇔	利益	危険	⇔	安全	原価	⇔	売価
縮小	⇔	拡大	液体	⇔	固体	既婚	⇔	未婚	現象	⇔	本質
委細	⇔	概略	液体	⇔	気体	喜色	⇔	憂色	嚴重	⇔	寛大
受信	⇔	送信	需要	⇔	供給	基数	⇔	偶数	原則	⇔	例外
賞	⇔	罰	マクロ	⇔	ミクロ	期待	⇔	失望	恒温	⇔	変温
異質	⇔	同質	江戸	⇔	上方	既定	⇔	未定	秘密	⇔	後悔
異性	⇔	同性	延長	⇔	短縮	奇抜	⇔	平凡	肯定	⇔	否定